

乗切一般 鈴木屋自動車部

親切な店 湯本驛前 丸正運送店

電話五七七番

電話二二一番

# 磐自治新報

發行日一月十五日(毎月二回)  
編輯印刷 箱崎義一  
兼發行人 箱崎義一  
發行所 福島縣石城郡湯本町  
天王崎四番地  
磐城自治新報社  
電話四〇番  
紙代 一部金十錢送料共  
廣告料 五號十二字詰一行金五  
十錢場所指定金壹圓

## 忠君愛國論の嚴正批判(三)

高木 默堂

大正に於ける時代の煩悶  
 明治の志士が内憂外患交々  
 到る國家的危機に際し一死  
 を賭して新日本の建設に努  
 力を盡した沈痛の体験はな  
 かつた沈痛の体験はなかつ  
 明治時代の先賢者の遺贈で  
 ある……の餘光を得て時流  
 の幸運に掉さし今日顯著な  
 地位を占むる人々か果し正  
 の時代には已に明治中葉は  
 て能く余の説く大正の時代  
 的煩悶を理解するや否やは  
 甚だしく疑はざるを得ない  
 今の社會の顯著者は大体實  
 力才能に於て其齊輩を抜い  
 た人々であらう。  
 又假令維新の畫策に關與し  
 なかつた人々であつたとはい  
 えず、維新の精神を繼いでつ  
 て日本を世界的に顯著な  
 鋭意これが完成に努めた人  
 々である事も、我々は認め  
 るに吝ならぬ、只我々の時  
 代的煩悶が如何に強く如何  
 に甚だしいものであるかと  
 云ふ一事に至つては恐らく  
 諒解を夫れ等の人に希望す  
 るのが無益な事であらう何  
 となれば煩悶は人生の一つ  
 特殊な精神的体験あるから  
 だ。余は極く冷靜な立場に立つ  
 れば今日この時代には皇室  
 結果を生ずるのである換言  
 せば今日この時代には皇室  
 人間として最後且つ終局の  
 ものなりと説き聞かされる  
 事は彼等の遂に首肯信服せ  
 る所であらう。  
 何となれば彼等の忠誠は日  
 本國全体に對するものであ  
 る。同時に日本國民としての  
 世界人類に對する責務遂行  
 論を得るに苦しむ。  
 嗚呼 日本民族は將來如何  
 にして立つべきかの問題に  
 想到すればうら若い青年の  
 胸裡には煩悶なきを得ない  
 此の如くにして現時代の青  
 年は内心的の煩悶と環境的  
 煩悶との只中に佇立す人心  
 殆からんするも豈に得べ  
 くんや (つゞく)  
 勿來にて  
 武士の雅び心を偲びつゝ  
 勿來の關の夕訪ねぬ  
 温泉神社に詣で、  
 よそめにもすししく見ゆる  
 袖ふきかへす夏の夕風  
 宮ひとの  
 平和削節製造元  
 鈴木道太郎  
 磐城屋 號  
 湯本驛 前

拳争闘が所謂選良の間に行  
 はるゝに驚く或は眼を經濟  
 界の前途に放てば天然の資  
 源漸く少く工業行はるゝの  
 餘地を求むればその工賃は  
 甚だしく不廉である、人口  
 の過剰の問題を考へては結  
 論を得るに苦しむ。  
 嗚呼 日本民族は將來如何  
 にして立つべきかの問題に  
 想到すればうら若い青年の  
 胸裡には煩悶なきを得ない  
 此の如くにして現時代の青  
 年は内心的の煩悶と環境的  
 煩悶との只中に佇立す人心  
 殆からんするも豈に得べ  
 くんや (つゞく)  
 勿來にて  
 武士の雅び心を偲びつゝ  
 勿來の關の夕訪ねぬ  
 温泉神社に詣で、  
 よそめにもすししく見ゆる  
 袖ふきかへす夏の夕風  
 宮ひとの  
 平和削節製造元  
 鈴木道太郎  
 磐城屋 號  
 湯本驛 前

荒物金物 雜貨各種  
 小野太市郎 店  
 小名 演町  
 建築請負  
 松本元次郎  
 磐崎村藤原  
 荒物雜貨  
 吉田恭平 店  
 湯本町 電五十八  
 天下一稻扱機  
 縣下販賣元  
 織内農具店  
 織内 精一  
 振替仙臺八一五〇  
 磐崎村下湯長谷  
 建築請負  
 長谷川誠一  
 湯本町  
 家屋移轉業  
 戸倉重次郎  
 湯本町  
 三井炭坑内  
 飯塚商店  
 磐崎村藤原  
 三井炭坑内  
 中野茂工門  
 同 藤原  
 石油發動機應用  
 出張摺摺及精米業  
 猪狩 安貞  
 磐崎村上湯長谷

磐城中學校長  
 唐 土 齊 治  
 平町公私立  
 學校長懇和會  
 小 田 吉 次  
 好 問 村  
 小名濱小學校長  
 正八位 西 山 直 三 郎  
 入山探炭株式會社  
 國 勞 働 自 治 會  
 入山探炭株式會社  
 坑 夫 組 長 (順序不同)  
 鬼 澤 八 百 松  
 高 橋 勇 五 郎  
 渡 邊 九 郎 兵 衛  
 宮 本 利 一 郎  
 西 原 末 吉 郎  
 野 木 寅 吉 郎  
 川 石 久 寅 吉 郎  
 三井炭鑛湯本鑛業所  
 佐 藤 清 三 郎  
 鈴 木 市 三 郎  
 三 宅 富 助 郎

# 新日本青年の行く途

代議士 比佐昌平

最近の世界……歐洲大戰以後の變動は非常であらうであるが、事實に於ては、後世の歴史家が筆を動かさずして之を何と書くであらうか？

ある時代からある時代へ……大なる時の流れの眞つ只中に、吾々現代人は立ッてゐるのだ。

地球の廻轉する速度は非常に速くて一秒間に十八哩半、砲彈の飛ぶ速度の四十倍ださうである。

吾々は寝てゐても覺めてゐても、地球は間斷なく運行してゐるのである。

時代の動きも正にさうだ吾々が關知せぬ間に如何なる波動、如何なる潮流が押し寄せて來るか解らぬのだ。

この時代の潮流に無關心でゐる人が時世の變動に驚いたとしても丁度ナイヤガラが、奔流に押し流されてゆくが、奔流に驚きの叫びを擧げるやうなものである。

世界大戰にも、我國は戦地に遠ざかつてゐた爲戦争の刺戟を受けることも少なく従つて戦争以後の變動にもあまり注意を拂はない

……時代の潮の流るまゝにせなければならぬ。何處ともなく漂つてゐるのではなからうか？否、その流の底に沈んで浮む瀬もあれば、哀れさに居るものはないか、あゝ何人ぞ起ちて、わが大日本帝國の運命を高らかに談じて得るものぞ。

豊原の理徳、の國吹く風枝も鳴らさざりしわが大和民族の國に、時ならぬ大風は捲き起つた。國家は今、危地に立つてゐるのだ。

民の知識が漸次に平等化した。大國が小國に對して、強國が弱國に對しての壓迫は行はれなくなり、國際聯盟が起りデモクラシーが普及されてきた。

更に驚くのは、從來の資本家が對抗して起つた労働者が、國家の上に労働者專制の政治を實現した。さうして更に之を世界に宣傳して更之を世界に宣傳し普及しようとしてゐる。

この世界的大變動の渦中に立つて、わが國家の經濟が如何なる思想に、果してどうであるか、六十億の大借金國が、思想界の安定を得ず、朝にアメリカに驚かされ、夕にロシアに脅やかされる、この國の現狀をわが國民は何と見るのであるか

新日本の思想界は、三千年來日本傳統の精神文明に新らしき世界文明の磨きをかけて、これを世界に光揚する

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

新日本の建設……それは、徒らに借金をすることのみ能とし、自給主義……生産はつしがるのである、何と云ふならぬ、吾等臣民は斯の道を深く厚く實行するを以て生活の基準と定めずばならぬ

大日本商事正行社 幹事 村上 泰 宮本 政造 東白 高岡 自動 車部

東白 高岡 自動 車部 各種新聞販賣 西丸 豊造

<p>署中御伺</p> <p>土木建築 請負業</p> <p>渡邊長作</p> <p>湯本町 電話四十番</p>	<p>前澤文太郎</p> <p>土木建築 請負業</p> <p>平町 電話二七二</p>	<p>箱崎義一</p> <p>高木美苗</p> <p>箱崎鶴松</p> <p>佐川善道</p> <p>平町</p>	<p>只野忠康</p> <p>土木建築 請負業</p> <p>植田町</p>	<p>中山組</p> <p>張出所</p> <p>植田町</p>	<p>常磐工業株式會社</p> <p>小野康一</p> <p>植田町</p>	<p>各種肥料セメント販賣</p> <p>雜貨 大和屋商店</p> <p>各種提灯製造</p> <p>芳賀爲雄</p> <p>菓子卸商</p> <p>渡邊商店</p> <p>自轉車業</p> <p>矢内林之助</p> <p>湯本町</p>	<p>藥は</p> <p>岩瀬屋藥店</p> <p>青木元治</p> <p>安心して買</p> <p>菅波藥店</p> <p>菅波正夫</p> <p>植田町</p> <p>藝妓屋組合</p> <p>長駒橋辰之助</p> <p>植田町</p> <p>小柳</p> <p>柳井忠吉</p> <p>柳井忠吉</p> <p>醬油醸造業</p> <p>坂本龜太郎</p> <p>植田町</p> <p>慈惠醫學士</p> <p>片岡醫院</p> <p>植田町電話一〇七番</p> <p>島田醫院</p> <p>内郷村</p>	<p>各種新聞販賣</p> <p>西丸 豊造</p> <p>湯本町</p> <p>各種新聞販賣</p> <p>佐藤和平</p> <p>湯本町</p> <p>各種新聞販賣</p> <p>石川八郎</p> <p>湯本町</p> <p>職業紹介</p> <p>木材仁吉</p> <p>湯本町</p> <p>職業紹介</p> <p>金成屋商店</p> <p>湯本町</p> <p>乾物果實海産物</p> <p>石川傳吉</p> <p>湯本町</p> <p>荒物雜貨海産物</p> <p>石清</p> <p>萬仕立物</p> <p>小笹商店</p> <p>センベイ卸商</p> <p>雜貨 稻澤商店</p> <p>稻澤原助</p> <p>小間物</p> <p>櫛田材木店</p> <p>櫛田義美</p>
--	--	---	--	----------------------------------	--	---	--	--



# 大日本商事正行社

主 宮本政造  
幹事 村上泰  
書記 大竹兵馬

東白、大原、小名濱、上遠野、湯本、高岡、自動車部

湯本驛前 電話五七番

## 傾城トシネルの亀裂は

### 山脈の異動から!!

湯本町傾城トシネルの亀裂原因調査のため三日來湯本町に出張調査中の仙台礦山監督技師安洋治、足川榮次、鍵尾喜一郎三氏の調査發表に依れば山脈の異動による結果で入山炭坑の地下探掘部機械掘進であるから出炭による亀裂は全然根據なきものとなつたが引續き坑では非常に期待してゐる調査中である。

## 公會堂を建設

### 植田町で

石城郡植田町では一般多衆會合の場所がなく不便を感じて居た折柄今同町有志は工費一万五千圓を投じて理想的な公會堂を建設すべく計劃し着手其實現につとめて居る。

## 入山炭坑

常磐各炭坑では申曜會の申合せによりいよいよ出炭一割減を實行することになつた、大倉、大日本三井各無煙二千噸、磐城七千噸、入山三千四百噸、古河千五百噸、三井千二百噸、福島八百噸で、毎月約二万噸づつ出炭減をなし万一違背した

## 波多野憲兵中尉

### 思想 監査

#### 健康保険

#### 無救護者表彰

仙台憲兵分隊副官波多野中尉は此程突如來平したが右は平町附近に居住して居た退役某將校が極左系等と連絡をとり東京本部との間に我る種の諒解を以てゐること平署の探知する事となり同人の調査を兼ね在郷軍人の思想行動監査のため秘密裡に調査をなして居るものである。

入山炭坑では去る十三日午前十時から臺の山俱樂部に於て昭和一年度健康保険新聞の価値高きに面寄せて退院と決りし宵や梅雨寒し川正信外二百三十一名に對し表彰状に浴衣一反宛を授與した。

## 讀むべからず

○△生

## 梅雨晴

### 高木撫山

片隅に縋帯屑や梅雨廊下梅雨寒や冷たく光る手行台梅雨晴や掛並べたる濯せの病葉を揺落してや雀の子看護婦が活けられたる花菱病室の窓押開けて梅雨晴間纏れ蝶風に別れて草に伏す梅雨減りの廊下危し松葉杖立梅雨此頃小暗き室となり

## 柳川あけぼの

### 東北の川柳指導誌

## 久田狂水

### 南京・虫

蜘蛛の園にあはれ必死の燈蛾哉  
橋納涼呼はれて一人立上りその中の話上手や橋納涼  
とも知らず南京虫を押へた

一ト長屋幟の垣を結び並べ新聞の価値高きに面寄せて退院と決りし宵や梅雨寒し水の高流るるもなき蓮浮葉高窓に廣葉を見せて梧桐哉

## 清 世 界

警城小名濱町 醸造元 清水屋本店 小野晋平

平町新田町 御料理 松の壽し 松本繁次郎

客間増設 親切勉強 温泉 古 瀧 湯本町 里見小八郎

酒御代一番 醸造元 御代武兵衛 警城村

湯本驛ヨリ一里 自働車人力車便アリ 旅泉 春木屋 織内慈平

旅泉 喜樂屋 高橋國太郎

旅泉 吉田屋 吉田己代太郎

## 共同主義の金融機關

僅かの掛金でまごまる資金

## 御大典新會員大募集

今秋の御大典の記念事業 貴下の家庭にお奨めする

貯金にも融通にも有利な

◆ナゼ不景氣ですか?

それはアラユル金融機關が、地方の金を集めて、みな中央へ持つてゆくからです。そして地方の金廻りが悪くなるからです。

◆民衆の金は民衆へ

地方の金は地方で融通したい、地方の金まはりをよくして不景氣の風をお拂ひたい。不景氣の追拂ひ役は、湯本無盡につとめさせて下さい。

◆絶好の記念事業

町でも村でも個人でも、今秋の御盛典記念したいと思ふことは庶民の情であります。貴下の家庭では何をお選びになりますか。

◆不景氣の追撃ひ策

湯本無盡は、貯蓄にも融通にも有益である上、中央集金の弊を打破して、地方の金融を潤澤にするものであります。御大典記念にはぜひ湯本無盡へ御加入下さい。

營業案内呈上 社員參上説明

福島縣石城郡湯本町二二五

## 湯本信用無盡株式會社

電話 四七番 振替仙臺七九六四番

金銀各種時計 眼鏡並ニ萬年筆 附屬品一式

## 菊地時計店

ラジヲノ親玉 湯本町電四十三番

石碑彫刻 燈籠各種

## 馬目石材店

湯本町御幸町 馬目隆義

### 炭坑のある内

鯨岡賢司

現世紀の活源は或程度まで同様な外部的施設方業手工業といつたものがな  
石炭であると言ひうる、先策のみでは此必然の運命をいか又此地に稍々適しそ  
う最も不経済な然し最も簡好轉させることが出来ない生産事業或は連携事業が  
単な重要燃料として、次に町の人々誰もがあらゆる機ないか我は又町有區有の不  
は一步利用を高めたコト會すべての方面種々な事動産のよ有効なる利用の  
クヌ、それからこれによつて物に對して常に細心な注意方法なきや又は平小鉄道の  
て得らるゝタームの極めてを拂つて更生の道を講究せ完成したる曉湯本は如何な  
廣凡な利用、この利用によなければならぬ、石炭の立場なり之れは種々色々  
つて石炭は全く變へられた煤煙の代りに草木を燃らせ如何な考へれば種々色々  
る形に於てあらゆる生活の硫黄の臭の代りに人の肺臓なる方面種類のごが出来  
必要を充して居る、併し漸を清浄にし日夜不斷の捲上る、水道の完成の如きも平  
く之まで食ひ込んで來た石機撰炭機の代りに糧を造る町の後成績に徹して多少  
炭の壽命は段々研究調査の生産機を持ち來すことが出の困難無理を我慢しても一  
結果それ程永くはないらし來ぬのか、而して又兄弟相日も早く着工するようにし  
い、勿論五十年や六十年位せめて代りに此彼相倚り相たたい、  
はまた、量に於てはある扶けて御互の營を豊かにすそれにして外部の施策よ  
かも知れないが、その必る後復の復は世界の驚異であ心を明示確認することであ  
要率利用が非常に高まりの或は暗示である、窮する願はくは十年後の湯本が  
つゝある現状から推せば無り或は暗示である、窮する願はくは十年後の湯本が  
限量でない限り人間生活のば通すとはよく云はれて居吾々の生活を脅かさぬよう  
需用に應ずる事は出来得るが窮して初めて道を求む共々に考慮し講究し明しくし  
い、遅かれ早かれ無くなるは非常なる必死の努力をたいものである。  
時が來る、現に常磐炭田を要し而かも其報いは努力に  
どは永く見ても今後百年位價しないかもしれない、そ  
のものであらう、否もつどれ次第第二段の躍進に對して  
早いかもしれない、殊に平の用意と注意とを欠くこと  
湯本、綴等炭坑地域の町村が多い、  
地區を遠ざかつて中心が他湯本は今此等の覺悟を要す  
の方面に移つて行つても運命に乗つて居るのだ即  
う、時期は實に此所十年で十年後遅くも十數年後に  
あらう、附近町村人口の五は今迄通りの夢を見ること  
割もあらう、炭坑稼働者等が出来なくなるに極つて居  
が台風中心の移行のように、其時になつて窮餘の無  
動いて行つたならば現在の鐵砲躍進をやれば十中八九  
内郷村などを初めとして湯失敗に終ると見ねならない  
本平等も肺病患者のような故に吾々は時前に覺悟を定  
空虚な形骸を死滅の手に委め周到なる用意を持して遠  
ねる外なき將來を予期せね謀らねばならない、  
ばならない、肺病なども早獨逸の如く勇敢に猶太人の

に欣喜を覺ゆるもの候何  
卒筆硯益々御健在を之れ祈  
ると共に郷里の發展の爲め  
一段の御努力相願度先は御  
禮詞に併せ御願返申述候  
就れ其中歸郷の際親しく拜  
眉の期も有之べく候へ共紙  
上を以て申上候 勿々不一  
八月十六日  
本宮町  
篠山 廉  
磐城自治新報社  
箱崎義一殿  
待史

前川湯本校長  
母堂の計  
湯本尋高校長前川三省氏母  
堂ナツ子刀自は去月廿日急  
病のため長逝せられた行年  
六十一歳 廿一日湯本町惣  
善寺に於て告別式を行ふ茶  
昆に附し最近郷里相馬郡眞  
野村に於て本葬を行ふ由

天理教  
菊田支教會  
磐城無盡商會  
植田町

岡本儀平  
士浦町

鯨岡 潔  
湯本郵便局長

湯本驛長  
渡邊初吉  
吳服大物商  
佐藤久太郎  
内郷村藤棚  
雜貨商  
佐藤其角  
内郷裁縫女學校校長  
油井敬六  
内郷村  
家具建具一式  
片寄小彌太  
平町五丁目  
三井炭坑第二分配所  
藤田善吉  
磐崎村  
三井炭坑  
大石雜貨店  
磐崎村  
各國最新型製靴販賣  
栗原森之助  
電話十六番  
小名濱海水浴  
旅館 案内  
新米旅館  
電話八番  
壽滿屋旅館  
電一〇番

錦盛館  
電話四番

龜屋旅館  
電話十二番

吉田屋旅館  
電話十四番

津村屋旅館  
電話四十一番

福田屋旅館  
電話十七番

橋本屋旅館  
電話四十五番

山形屋旅館  
鈴木康平

松柏館  
比佐榮一

昭和館  
島崎三五郎

備中屋  
島崎三五郎

勇屋旅館  
志賀キーン

新地 新 蔦樓  
若松幸藏

滿玉樓  
白鳥美好

丹 已代松  
下湯長谷

上湯長谷 姥の湯  
若松猪八郎

磯上忠馬  
西郷

鈴木寅松  
磐崎村

藁谷文平  
磐崎村

つた安  
比佐安次

柳屋  
御料理 電十七  
柳生凌次郎

濱松屋  
生そば御料理  
電十八番

ニコニコ屋  
御料理  
野木傳

本間勘太郎  
學用品販賣  
湯本新學校通

山木春藏  
小名濱、湯本間  
湯本町

佐川徳次郎  
精米業  
湯本町

乗切一般 鈴木屋自動車部  
電話五七七番

確切な店 湯本驛前 丸正運送店  
電話二二一番